

『QBCBT』で CBT 9割とれました!

T大学 たまさん
CBT: 2月下旬
勉強開始: 12月の第2週から
勉強期間: 2ヶ月ちょっと
得点: 92%

『クエスチョン・バンクCBT』以下『QBCBT』は秋には購入していたのですが、完全に手つかずで(笑) 12月半ばから約2ヵ月と少しの間で対策しました。決して長くはないですが、それでも92%正解できたので、自信を持って勉強法を紹介します!

私がしたことは、一言で言うと『QBCBT』に書いてあることを隅から隅まで覚える」ということです。

●1周目

問題を解いて、できなかった問題にチェックを入れ、解説部分で知らなかったことにマーカーを引いていきます。まずは**全体を見たいのでテキパキ!**

●2周目

1周目でできた問題もできなかった問題もぜんぶもう一度やります。もちろんできなかった問題にはチェックを入れます。

このとき大切なのは、問題に正解することだけを目標とせず、「**選択肢すべてに目を通し、確信を持って正解以外の選択肢を切れる**」「**解説部分も全部覚える**」ことを目指すことです。ルーズリーフも用意して、忘れていた事項を簡条書きにして書きとめながら進みます。

●3周目

だんだん本もくたびれてきますが、まだしこく全問に目を通します。

ここでする作業は、問題も解説も**100%覚えたと言い切れる部分とそうでない部分を分ける**ことです。自信を持って正誤を選択できなかった選択肢や、解説部分のまだ頭に入っていない記述、3周目にして未だ正答できなかった問題を太いカラーペンで目立たせていきます。

この辺りで2周目に書き出したルーズリーフの番番です。簡条書きした中でまだ覚えていないことを洗い出し、暗記していきます。3周目で目立たせたことかなりかぶっていて、自分の記憶力のなさを痛感するので、ショックでけっこう頭に入ります。

●4周目

今度は3周目で目立たせたところだけやります。また違う色のカラーペンで、ここでも覚えきれていないところは強烈に目立たせておきます。同時にルーズリーフにも書き出しておくと、直前の移動時間などで見直せるので便利です。

余裕があるなら、今まで1度でも間違えたことのある問題はすべてやるといいと思います。

私はこのような感じで『QBCBT』ばかり4周し、これだけで試験に臨みました。当日の休み時間にも、4周目で間違えたところを中心に、『QBCBT』をバラバラとめくっていました。

いろいろな出版社の問題集を併用している人も多くいましたが、この勉強法の良い点として、

- すべての分野を**まんべんなく勉強できる**
- 問題集をバラバラめくるだけで、**どの分野が苦手か視覚的によくわかる**
- 直前に見直していて、確信を持って答えられる問題がたくさんあるので**自信を持てる**
- 曖昧な知識ではなく、**これだけは100%合ってる!**という知識が増えていく

といったことが挙げられると思います。

手を広げすぎるとどれも中途半端になるより絶対いいです! 何から始めるか迷っている人に、ぜひ試してみたいと思います。

先輩た
CB
体

F大学 エリカさん
 CBT:冬
 勉強開始:秋から
 勉強期間:3ヵ月くらい
 得点:86%

『病気がみえる』 『レビューブック』 との併用でまんべんなく

CBTのコツは、あまり深く考えず、第一印象で素直に答えることだと思います。授業で必ず取り上げられるメジャーな疾患がたくさん出て、浅くてもいから広範囲の知識が求められていると感じました。基礎、メジャー、マイナー、社会医学とどれもまんべんなく出るので、得意不得意を作らず、**とにかくまんべんなく勉強する**のがいいと思います。全体的には、治療法を問う問題は少なく、主に検査とか、まず面接で聞くべきことなどが多く問われていました。

時期別に何をしていたらよかったか、反省を含め書いていこうと思います。

●4年夏

- 2、3年次に学習した基礎医学(生理・生化学・解剖・発生など、既に忘却の彼方であるもの)の復習をしておく、直前に焦らなくていいと思います。臨床と関連のある分野が出ている感じだったので、**臨床で出てきたときにわからなかったことを逐一復習**していく習慣が大切だと感じました。

基礎は試験前1週間とかで対策を立てられるものではないので、日頃の講義を自分なりに整理して理解しながら能動的にこなすのが一番だと思います。

●4年秋

『QBCBT』を解き始めました。他社の問題集を使っているクラスメイトも多くいて、不安を感じた私は両方やりましたが、最終的には『QBCBT』をメインにやりました。『QBCBT』のよいところは、問題に関連する解説がしっかりついていて、これは全体のここ!といったように**全体像がつかみやすい**ことです。

私は学校の臨床教科の定期試験で『病気がみえる』を使っていたので、『病気がみえる』に対応している『QBCBT』では、**同じ図版を何度も見ることができ、記憶に定着しやすかった**です。

また、『レビューブック』(以下『RB』)の対応ページが書いてあるので、『QBCBT』の問題にでてくるものを『RB』にラインを引いたり書きこみしたりしていくと、『RB』が**まともなノートの役割を果たして**、テスト直前には『RB』を見直すことができ、役に立ちました。特にマイ

ナーの『RB』はよかったです!

●1ヵ月前

『QBCBT』ともう一方の問題集を3回ずつ終わらせました。

●2週間前

『QBCBT 最新復元問題』と他社の予想問題集を終わらせました。

●前日まで

公衆衛生、社会医学など、直前で大丈夫なものをやりました。

●当日

目が疲れるので、目標を持っていくことをおすすめします。

そのほか使った問題集は、リブロの『共用試験対策シリーズ』や『薬理学—CBT対策と演習』など。成績は得点率86%で、学校内の順位は10位でした。テストが終わった直後は6割あるかなと不安だったのですが、採点削除問題がたくさんあるので意外と得点率は悪くないです。

日頃の授業を大切に、まじめにやっていたら大丈夫だと思います。

ちの 下 験記